

## 2009年 ISAF・ORC 年次総会 報告

報告 JSAF 国際委員会 小林 昇

2009年の、ISAF年次総会は、韓国の釜山(パラダイスホテル)で、11月5日から15日まで開催された。

その中で、外洋系の委員会は、

- 11月8日午後エンピリカルハンディキャップサブコミティー
- 11月9日にオフショアスペシャルレギュレーションサブコミティー
- 11月11日にオセアニックアンドオフショアコミティーが開かれた。

エンピリカルハンディキャップとは、ORCやIRCの国際的なレーティングシステムではなく、各国独自のハンディキャップシステムを管理するコミティーで、オフショアスペシャルレギュレーションサブコミティーは、外洋艇の安全装備や搭載備品の規定を管理している。共にオセアニックアンドオフショアコミティーの下にあるコミティーで、特別規定SRの改訂はカOUNシルの承認無く最終決定となるが、その他の事項はカOUNシルの決定が最終となる。

同時に、ORC(オフショアレーシングCongress)の年次会議がこちらは5日から10日まで開催され、その中で10日に開催された年次総会に出席した。

ソーシャルイベントとして、

- 8日に、釜山市主催の歓迎ディナーレセプション
- 9日に、ORCディナー
- 10日に、ISAFロレックスワールドセーラーズオブザイヤーアワード が開催され、出席した。

JSAFの外洋を代表して、植松 真副会長と、小林がこれらの会議に主席した。植松副会長は本年から ORC のCongressに就任されて初の参加となった。他に、前田専務理事、国際委員会から、戸張房子氏、大谷たかお氏、柴沼克己氏が出席された。日本からは別に ORCAN の富田 稔氏、横山一郎氏が、ヨットエイドジャパンから大坪氏と他1名が出席された。

本年の両機関の年次総会について注目すべき事項と、JSAFに関連する事項を列記する。

- 1、ISAFの外洋の政策方針が大きく2つの面で明確に転換期に入った。
  - ・ IRCの台頭に関連し、ORCを特別に扱うことを修正する。
  - ・ フランスを中心として開催されるオセアニックレースへの関係を強化する。
- 2、IRCの証書所有数が増加した一方、日本でもその数が逆転した。
- 3、ORCは、IRCに対抗するために証書発行の対象艇を広げたり、VPPの見直しで市場要求に対応を強めている。
- 4、ORCの証書発行総数が増加した一方、日本では最も減少が大きな国となった。
- 5、日本で、レーティングシステム(ORC・IRC)を使用してレースをする艇が減少を続けている。
- 6、植松副会長がORCのCongressに、小林が、ISAFオセアニックアンドオフショア委員会の委員になった。
- 7、ISAFの年次総会が、アジアではシンガポールに続き、韓国で開催されて、日本の世界における貢献について、再考が望まれる。
- 8、近年、発展を見せている中国・韓国の外洋ヨット界との関係強化が望まれている。

\* オセアニックアンドオフショアコミティー・ ORC年次総会・ スペシャルレギュレーションサブコミティーの個別報告書を添付いたします。

以 上

今年、ORC に取って30回目の年次総会となる。

コンgressのみが出席する EGM が午前中に開催された。午後にオープンの AGM(年次総会)が開かれた。

### ブルーフィンチ会長の報告

ORC のレーティングシステムは、33カ国で使用され28カ国にレーティングオフィスが開設されている。イタリアやオランダでは1000隻以上に証書が発行されていて、国際的に支持されている。2009年は前年比で5%の発行数が増加し、昨年行ったテクニカルコミッティーの VPP 改善も支持された。GP クラスも順調に発展し特に GP42 のイベントは活発化した。レーティングオフィスとのデータ交換もインターネットを使って容易となり、過去数年間でやってきた改善が実を結んだ。パフォーマンスとスタビリティに関するデータを提供するサービスも始まった。

#### 1、2008年の AGM の議事録が承認された

#### 2、コンgressメンバーの変更

新しくコンgressに選ばれた人の紹介と、挨拶があった。植松副会長も挨拶された。

#### 3、マネージメントコミッティーの報告

ORC の各コミッティー委員長の紹介があった。あまり詳細な報告は無かったが、議事録からピックアップする。

- \* ORC と US Sailing の関係で、IMS の LPP と VPP の使用と関連のソフトウェアに付いての MTI・US Sailing と ORC 間の全ての相互義務についての終了合意はついに3者でサインされた。この合意によって、ORC の VPP と関連ソフトウェアは US Sailing と MIT に対する責務なしに、ORC 単独での責任と所有になった。IMS の開発に関しては、上記3社の共同開発であることは知られているが、この関係が上記の合意で解消した。
- \* 財務面では、2009年は良好に推移しているので、2010年の予算はレビの値上げ無しで組んでいる。
- \* 11月1日までの証書発行数は、Club 証書の増加と International 証書の減少を内容として、既に前年の合計を上回っている。
- \* 特定国への対応

オーストラリア：CYCA へのシドニーホバートレースに ORC フリートを設定する提案は受託され、証書発行とデータのチェックが進んでいる。シドニーホバートレースの参加を前提に年度末までスタビリティデータシートと共に無料で証書が発行することがこの提案には含まれている。加えて、AUSI の提案はオーストラリアのフリートで試され、2010年の最終ルール案の参考にされる。

ポルトガル：APR を2010年のレーティングオーソリティーに指名することを了解する文書が合意された。

日本：マネージメントコミッティーは、チーフメジャーの日本訪問に予算を組む決定をした。

- \* 新しく、レーティングオフィサーコミッティーの設定を決定した。現在のワーキングパーティーはここに吸収され、自動的にレーティングオフィス又はチーフメジャーもしくはそれに変わる人がメンバーとなる。
- \* コンgressメンバーの見直しが行われ、カナダ・チリ・ロシア・スロベニアからの各1名はペンディングとされた。
- \* 故大儀見 薫氏が Roll of Honour となられた。
- \* ISAF との関係について、レーティングシステムを使った外洋ヨット世界選手権の開催権は ORC のみが保有しているが、ISAG レギュレーションを変えて IRC にもこれを持たせるサブミッションが出ている。これは ORC にとっては大きな問題で、ワーキングパーティーを作り、有効なオフショア組織を構築することを目指す。

#### 4、フリート状況

各国の証書発行状況が発表された。11月はじめの時点で前年を上回っていることは既に述べた。

前年比較で、International は175減少して2201隻、Club は352増加して5075隻。全体で7099隻が7276隻となり、175隻増加した。ここ数年減少してきた傾向が上昇に転じたことになる。総数で減少が目立つのは、日本の-148隻、アルゼンチンの-72隻、ブラジルの-37隻など。逆に増えてのは、イタリアの+135隻、ノ

ルウエイの+92隻、ロシアの+63隻などで、オランダ・ドイツ・ギリシャ・スペインなどの元々隻数の多い国も堅調であり振興国も伸ばしてきているのが増加に繋がった。韓国も Club だけであるが25隻から44隻に伸長している。IRC は8月末の時点で単純比較は出来ないが6224隻を数え、前年最終は7740隻であったから、ORC Club の今年5079隻に対しては大きく水を開けていると言えよう。日本では、ORC International が26から1隻に、Club が269から146隻になった。IRC では122隻が208隻と大きく増加し、世界で8番目のフリートの位置を占めている。しかしながら、2つのレーティングシステムを運用する事での混乱や景気の低迷によって、これらのレーティングを取ってレースをする艇の減少は ORC Club で一時は500隻を超えていた事を考えると、どちらの証書も取っている艇があるのでレース艇の実数は300隻程にまで落ち込んでいると考えられる事に注目する必要がある。

## 5. 委員長の変更と紹介

## 6. テクニカルコミッティー報告

ここは、ORC のレーティングシステムを支える重要な委員会、性能評価とその改訂を行う。セーラーにとって重要な項目を報告すると。

- \* 現在のエージアローワンスの最大は高すぎるが毎年加えられる数値は正しいので、最大アローワンスを  
1. 3%から0.975%とし、15年を期限とするので、毎年0.065%をあたえる。
- \* デザイナーのオフセットを ORC International の証書発行のために受け付けることを決定した。この基本方針は2009年にオーストラリアのフリートで試される。
- \* Jより長い SPL と TPS (スピンポール・バウスプリット長さ)は、メインセールのブランケットを逃れられスピネーカーやジェネーカーの効果を上げられる。この効果増大の最大を20%とする。
- \* クルーザーレーサー艇については、パワーアシストウインチと全てのパワーアシストシステムの使用を認めるが、これらの使用艇には全てのハンディキャップに対して最大0.5%のペナルティーを与える。これはクルーウエイトの申告によりデフォルトクルーウエイトとの比率により軽減されるであろう。
- \* スピネーカーコンフィギュレーション ORC ルール 206.4 の明確化セールコンフィギュレーションは以下のよう  
に使ってよい  
TPS が計測された場合、どのスピネーカー(対称・非対称・又はコード0)もタックはセンターラインに取付ける。  
SPL と対称又は非対称スピネーカーが計測された場合、どちらもタックはポールに取付ける。  
コード0はポールには取付けられない。  
SPL が計測された場合、ジブはスピンポールに取付けられる。  
加えて、ダブルジブとポールに付けられたジブを許可している 207.4 と 207.5 は削除される。
- \* レーシングディビジョンは消滅し、クルージングディビジョンに適合しない艇はパフォーマンスディビジョンにグループ分けされ、ここでは全てのヨットは ISAF 特別規定カテゴリー4のみに適合すればよい。

**注意** 上記は要約であり実際の運用公示は ORCAN の発表が正となるので、参考として扱って下さい。

このほかに、多くのエアロダイナミックスの検証結果や研究などの結果が 2010 年のレーティングを適正化するために反映される。ここで決まった新しい VPP を適用した主要な艇別の予測数値表が配布された。その内容は、要約すると、2010 年のテストフリーとは 2009 年と比較して GPH で 1% 未満の変化を示している、一般的に軽くトランサムが沈んだ艇は GPH で低速化し 重くて長いオーバーハングを持つ艇は高速化している。<この変更はよりモダンなデザインのフリートには、その他のフリートには明確な変化を与えることなく、良い結果を生んでいる。>とテクニカルコミッティーのアレッサンドロ ナザレ委員長は言っている。

## その他、

2010年の予定などが公表され、会長や副会長の改選が行われ、現行役員が引き続き任に付いた。

### エンピリカルハンディキャップシステム

サブミッション107-09: エンピリカルハンディキャップだけでなく、ORCやIRCのような国際的なレーティングシステムを含めて、総合的にレーティングシステムサブコミッティーと改称し、各種のデータや情報を共有し相互の向上を図る。という内容のもので、ニールスノルデンストロム委員長の所属するノルウェイセーリング協会から提案され、内容の討議がなされた。

### スペシャルレギュレーションサブコミッティー

継続してワーキンググループが検討している項目の報告と、サブミッションの検討が行われた。近年の重要事項は、ストームセールの最大面積規定の適合性の検討があり、現在の規定は軽い艇では面積が大きすぎる傾向がある。調査によって、艇の排水量に合わせた適切な面積のストームセールが必要とされてきた。2010から新たに設定された面積が適用され、それ以前のストームセールはグランドファザリングされることが決定しているが、さらなる検討がワーキンググループで続けられている。

新しい構造設計の検証団体の指定についての進捗状況の報告があり、ヨーロッパ各国で8つの団体が2009年3月に指定された。しかしながら、キールの構造を現状ではISOではカバー出来なく、今後の継続した改善が必要である。トレーニングについての検討も継続事項として取り組まれている。

判りやすいスペシャルレギュレーションに書き換える Redraft 計画もここ数年検討されているが、明確なものは今年も出てこなかった。まず利用の大半を占めるCAT-4を作成し、次にCAT-3に進む方針である。その他、危険なコンパニオンハッチや船内を通るコントロールなどの注意が必要な項目の報告や、事故事例報告などもなされた。

規定の変更で決定されたものとしては、ライフラインに、ダイニーマロープの使用が認められた。サイズはステンレスワイヤーと同じ直径とされている。サブミッションの決定内容は別紙詳述する。

### オセアニックアンドオフショアコミッティー

長く、委員長を務めてきたフィリップトルハースト氏(UK)からジャックレーン氏(仏)に交代した。フィリップ氏は ORC の会計なども兼任していたが ISAF の Constitutional 委員会メンバーとなったため利害関係者ということで委員長は退任した。ジャックレーン新委員長は IMOCA(International Monohull Open Class Association)系に関係が深いマルチハルセーラーで、オセアニックレースに強い方である。今回の委員長交代と、executive committee から出された、ORC の扱いや、IRC 協会からの世界選手権の主権獲得、などは、ISAF がオセアニックコンコーダでその外洋分野の政策をより広く(ホルホーシャン・ベンディグローブなどの注目を集めるレース分野)展開する、そして ORC を特別扱いしない公平なレーティングシステムの取り扱い、の方向へ舵を切り始めたことを示している。

ORCはポールヘンダーソン前会長時に、ISAFに編入され、その後再び独立した経緯があり、今回のISAFの動きに警戒を強めている。舵切りには少し時間を掛けてゆっくり取り扱う必要があるようだ。以下に議事内容を報告する。

#### 1. 委員会開会

委員長による開会と出席者への挨拶

#### 2. 昨年の議事録

(a) 2008年11月12日開催の委員会議事録は、承認された。

#### 3. 委員長の報告

委員長の口頭での本年の活動概略報告として、就任後に新任委員のサブコミッティーやワーキンググループへの適切な割り当て、ORC や IRC の関係者との面談や、フランスの長距離レース主催団体へのアプローチなどを行っ

たということである。

#### 4. ワーキングパーティーの報告

##### (a) 標準パラメーターと表記法/計測のプラットフォーム

(Standard Parameters and Notation/Measurement Platform)

2008年11月版ドラフトが配布され、ほぼ完成している。今後の運用が次のテーマとなる。ERSと共に、国際的にヨット各部の呼称と、計測法の統一を行いプロダクションヨットビルダーやデザイナーや、レーティング・ハンディキャップシステム管理者がこれを使うと、非常に便利なことになると期待される。

##### (b) オフショア特別規定の書き換え

内容の変更でなく、判りづらい表現を緩和して、表記表現方法・構成・編集など判りやすいもの書き換える作業で外部の編集者なども使い、まずは Cat-4 から始める。

#### 5. ISAF認定レーティングシステム

##### (a) エンピリカルハンディキャップサブ委員会

ノルウェイSFからのサブミッション 007-09 について。これは、ORC や IRC などの国際的なレーティングシステムをこのサブコミッティーに編入しレーティングシステムサブコミッティーと改称する提案であるが却下された。

##### (b) オセアニック・オフショア委員会へのサブミッション

IRC オーナー協会からのサブミッション 107-09 について。これは、ISAF 認定のレーティングシステムから、オセアニックアンドオフショア委員会に2名の委員を加える提案で、ORC と IRC から各1名の委員をこの委員会に加える。というものであり、その意図は受け入れるが表現内容が不明瞭なので、議事録に残してカウンスルへの勧告を作る。と言う事で提案は引き下げられ次年に再度サブミッションを出す事となった。

##### (c) IRC 世界選手権

サブミッション 108-09 は、IRC オーナー協会の提案で、IRC レーティングルールにも世界選手権を加える。という内容である。

##### (d) レギュレーション18－世界選手権

サブミッション 109-09 は、エクゼクティブコミッティーから、全ての ISAF 公認レーティングシステムの世界選手権開催についてレギュレーション18の規定を変える提案で、次の(e)と共に(c)の提案を実現させるためのレギュレーションの改訂提案である。

##### (e) レギュレーション29－ORC

上記、c,d,e, は、相互に関連している。ISAF と ORC の歴史的な関係と IRC の台頭が根底にあり ORC から強い反発があった。基本的に ISAF は、<現存するレーティングシステムをここで評価したり、どちらかを特別に扱うと言う事はするべきでなく、公平に扱うべきである。ISAF が定める基準に適するルールを歓迎するべきである。>というものでこれはデビッドアイリッシュ副会長のコメントである。

ORC は、<2003年にワーキングパーティーの勧告で定められた、レギュレーション28. 3を無視した提案である。>と反応した。

<短時間の審議では是非を決めるべきではない。ワーキングパーティーで十分審議すべき。>

<IRC は、十分広範囲に普及しており、世界選手権を開催する資格がある。IRC オーナーズ協会の意向で出てきているもので、セーラーの希望であり、これを無視してはならない>

<隻数が十分だからといって、ISAF の世界選手権開催権を持つのに足りるという訳でもない>

等の意見が出た。

レギュレーション28. 3の原文は、

Designation of International Rating System shall not automatically entitle thr rating system to holdaworld championship. Rating System not covered in Regulation 18 shall apply to ISAF for approve to hold a championship qualification to hold a world championship shall include rating

systems which are based on measurement and scientific formulation available to all certificate holders.

であり、最後の部分がIRCでは充足されていない。つまり、IRC では計測はするが、ハンディキャップ数値に至る公式などがブラックボックスで、参加者にとって自己の、又は競争相手の数値が正しいかという確認が不可能でありこの条項を満足させていない。というのがORCの主張根拠でもある。

オフショア委員会では、108, 109, 110を保留し、エグゼクティブコミッティー、ORC、IRC とオフショア委員からなるワーキングパーティーで討議することとなった。また、このワーキングパーティーには  
<これらのサブミッションに対して対応するのではなく、今日、世界選手権というイベントは以前ほどセーラーにとって重要でもないので、2つのレーティングシステムが外洋セーリングを2分するような方向ではなく、成長するような方向で新しいサブミッションを作るべきである。>という希望も出た。

## 6. ハンディキャップシステムからの報告

国際的な、認証されたハンディキャップシステムからの報告

- (a) ORC International
- (b) ORC Club
- (c) IRC

(a)と(b)は ORC のフィンチ会長が、(c)は RORC のジャネットグロスバナー氏が報告。

## 7. アドバタイジングコード

011-09 プロポーサル(1) 承認する 文章の整理  
プロポーサル(2) 取り下げられた

013-09 反対し、コメントは無い

015-09 広告を掲示する艇に対して、追加のエントリーフィーを設定しても良いが、追加額の上限は通常艇のエントリーフィーを超えてはならない。という上限設定ルールであるが、一部の語句訂正を提案する事で、承認された。

## 8. ISAFステータスへの申込

- (a) MAXI 協会 反対 昨年の資格充足の要求が充たされていない。
- (b) クラス40 承認

## 9. 外洋特別規定

サブミッションの検討結果は別途文書にて報告、主だった項目は

ダイニーマのライフラインが承認された。

ハーネスとセフティーラインの強度規定と利用期限が明確に設定された。

ハーネスにクロッチ(股)またはサイ(太腿)ストラップが規定された。

ストラクチャルデザインリクワイアメントで、ISAF指定団体が掲示された。

ストームセールの面積規定について継続して検討される。

などが主なところで、大きな変更などは無い。別紙にて詳述する。

## 10. 報告と意見

- (a) SR サブコミッティー 特に無い。
- (b) エンピリカルハンディキャップサブコミッティー 特に無い

## 11. ISAFセーラーズクラシフィケーションコード

グループ2が無くなり、2つのグループだけになる。

## 12. オフショアチームワールドチャンピオンシップ

ORC が主催する初のオフショアチームワールドチャンピオンシップが、2010年6月20から26日に、イタリアのポルトチェルボで開催される。1チーム2隻で、使用艇はファー40とメルゲス32が予定されている。

との報告が ORC のフィンチ会長からなされた。

### 13. オセアニックコンコーダ concordat = 協約

委員長から、2009年に行われたいくつかのオセアニックレースの主催者との、将来の ISAF との関係についてのミーティングの報告が口頭でなされた。これはベンディグローブやボルボオーシャン、トランサットなど大きな興味と関心を集めるオセアニックレース(長距離外洋レース)の主催者やクラス協会などと ISAF が協定を結び、積極的にかかわっていく方針があり、その協定書のドラフトが提示された。新委員長はこれらの団体や主催者とも従来から親しく、また本場のフランス人と言う事もあって、今後の展開が期待される。

### 14. ワールドセーリングスピードレコードカOUNシル

2009年に達成された、目覚しいスピード記録の報告があった。

### 15. インターナショナルレギュレーションコミッティー

アラングリーン氏(英国)が国際的な規約やスタンダード設定機関との活動やトピックスの報告を行った。

### 16. オフショアクラスの活動

ISAF のオフショア艇でインターナショナルクラスとレコガナイズドクラスの2009年の状況は、全てのクラスの報告がアップされているわけではないが、ウェブサイトを確認できる。

### 17. チェアマンズレポート

2009年の活動報告は、委員会冒頭でなされた。

### 18. その他

特になし。

以 上

以下は議事録の訳出で、決定内容はオセアニックアンドオフショアコミティーの決定としてあるので最終となる。

### オフショアスペシャルレギュレーションへのサブミッション検討結果

#### OSR 3.08.3 ハッチとキャビンへの浸水 (SR01-09)

趣旨はいくつかの利点があるが理想的にはシンプルに表記されるべきである。提案は保留されるべきで、ワーキングパーティーで再検討される事となった。

#### OSR 3.14.6 ダイニーマガードレール (SR-02-09)

許可される材料の選択は規則の最初から明確に特定されるべきである。ダイニーマト(リードマーク)では特定しないと提案されたが、提案者から材料特定は重要でありスペクトラはダイニーマ社のライセンスで製造されているので同一品であると考えられるとの報告があり、合成ロープはISO 基準15085の落水防止と救助でも許可されていることも考慮されるべきである。と言う事で、ダイニーマの推奨評価はステンレススチールのグレードを推奨している現状の文書と同じである事が合意され承認された。

#### OSR 5.01 ライフジャケット (SR 03-09)

5.01.4 責任者はこのライフジャケットを少なくとも1年に1回は自分で点検せねばならない。

\* 印の注記を(a)の後ろに移動し、上記を加える事で、承認された。

#### OSR 5.02 セフティーハーネスとサフティーライン(テザー) (SR04-09)

強度基準と、使用期限が明確に表示される事となり、承認された。

#### OSR 2.01 イベントのカテゴリー (SR09-09)

このサブミッションは取り下げられた。

### OSR 構造デザインの要求

(a) 新しい OSR のプランレビューの必要の適用についてのより進んだ報告がなされた。

2008年の決定を受けて、ISAFが承認する認証機関の指定が実行された。2008年の12月にバラスト付きヨットの経験や信用度、会計審査や保険などを含む4ページの質問状を出して、この件についての照会を配布した。その結果2009年3月に認証団体が指定され、料金や運用方法、責任を含む要綱が提出された。現在でのISAFが認定した認証期間は以下で、

- 1、ジャーマンロイドAG (ドイツ)
- 2、RINA S.P.A (イタリア)
- 3、VTTフィンランド(フィンランド)
- 4、ノルケベリタス (ノルウェイ)
- 5、ICNN (フランス)
- 6、IMCL (ベルギー)
- 7、HPi Verification (イギリス)
- 8、RYA (イギリス)

更新は、ISAFウェブサイトに表示される。<http://www.sailing.org/sailors/28167.php>

認証機関は、ISAFが発行する独特の証書番号つきで証書を発行する。

現在の費用は、カスタム・ワンオフ艇で500ポンド、シリーズプロダクション証書では250ポンド。

現状ではISOスタンダードの12215(キールと付加物)がまだ完成していないのでその他の認証された基準をISAFとしては提示する必要がある。ISOが2010年初めにカバーしてくれれば良いのだが。



OSRの解釈8が、エージとシリーズデートについて発行されている。また、船齢とシリーズデート、修理と改変、マルチハルについてSR05-09のサブミッションが出されている。

ワーキンググループは、建造中のサーベイも含むようになるべきだと考えていて、この運用に関しては、正式なサブミッションで提案される必要があると述べている。

- (b) サブミッション SR 05-09 は本年に認証団体から出された質問によって委員長から提出され、全員一致で承認された。

## ストームとヘビーウエザーセール 面積

### (a) 討議の全般

2008年の年次総会でストームセールの面積を減らし、2010年からこれを施行することが決定した。

RORC の陳述に従い、スペシャルレギュレーションサブコミッティーとオセアニックオフショアコミッティーが、2010年以前に作られた全ての現存するストームセールのグランドファザリングをするという提案に付いて、イメールによる投票が行われた。この結果、提案は両委員会承認され、ワーキングパーティーを構成して本件を検討する会合を持ち、その原案を提出することが合意された。

### (b) ストームセール面積

サブミッションSR06-09はRYAから提出された。サブミッションSR10-09がまず投票され承認されたので、SR06-09は取り下げられた。

### (c) サポートングペーパー

RORCに代わってRYAから提出された、2009年に承認されたストームセール面積について検討されたサポートングペーパーは有益であった。

### (d) ストームセール面積

サブミッションSR10-09はIRCLレーティングシステムから出された、2008-2009年のOSRでの最大ストームセールの面積は、ワーキングパーティーが報告したり、何らかの勧告をするのに十分な時間が与えられるまで保留すべき。というもので、これは全員一致で承認された。

### (e) SR4. 26 ストームトライスル

サブミッションSR08-09は、Cat-4で40%までリーフ可能なメインセール又はトライスルの必要性を削除するという提案であったが、上記ワーキングパーティーでの検討をする事で、取り下げられた。

## トレーニング

### (a) ISAF オフショアパーソナルシーサバイバルコース

年次のMNAに対する、シーサバイバルコースの対応と参加者についての質問は有益であった。

ステンエドホルム氏は、次回ミーティングにCAT-3のレースに少なくとも1名のクルーはトレーニングを受けねばならない、というサブミッション提出を計画することを強調した。

### (b) 附則G-1日の更新講習

サブミッションSR07-09 5年経過してトレーニングの更新が必要な人へは、1日コースに減らす。というもので、6項を<その国の規定による適切な医療と消火トレーニング>に修正する事で、承認された。

## 保留されていたサブミッション

### (a) OSR3. 14 パルピット、スタンション、ライフライン

保留されていたサブミッションSR02-08、はエクイップメントコントロールサブコミッティーが2010年1月のERSワーキングパーティーのミーティングで本件について、サブミッションSR02-08として議題にのせる計画がある。したがってERSワーキングパーティーの提案まで保留とする。

### (b) OSR5. 02. 1 セフティーハーネスの義務の 股(crotch)ストラップ

クロッチストラップワーキングパーティーはSR06-08が保留となってつくられた。ここの報告は、OSR5. 01ラ

ライフジャケットと、5.02セフティーハーネスとセフティーラインにも言及している。最終的に、SR06-08を却下して、関連項目を考慮したワーキングパーティーの報告を採択することが満場一致で承認された。

SR-06-08を却下して、

- 1) OSR5.02は、2010年1月から、事前の通知を行って、2011年1月からハーネスは股紐(crotch)または太腿(thigh)紐(straps)を付けねばならない。と改訂される。
- 2) OSR5.01と5.02は、2010年1月から以下の推奨を加えるように改訂される。  
＜クラッチストラップまたはサイストラップは関連する装備と固定器具と共に着用者を水面に上げるに十分な強度でなければならない＞ 最低強度と材料の要目はワーキングパーティーにより特定され、2011年1月以降に購入される新しい器具について適用され、2010年3月末までに公表されねばならない。(在来品は有効とされる)
- 3) ISAFはISOクラッチストラップタスクフォースの提案による検討を支持する。ISOクラッチストラップタスクフォースは、この分野における調査や開発を常に注意して入手可能な知識を確かめ、他のタイプのハーネス(例、登山用)を研究し、定期的にISAFに報告するよう求められる。
- 4) ISAFは、MNAの協力を得てヨットینگメディアやライフセービング機関・著名なセーラーなどを通じてクラッチ・サイストラップの有効性を喧伝する。同時にハーネス付ライフジャケットの価値とその使用を促進す

#### オフショアスペシャルレギュレーション

##### (a) 開発

適切でないヨットの設計開発例が委員長から報告された。TP52クラスにおいて、過度に大きなコンパニオンウエイに埋め込まれたハリヤードウインチや、船内を通過するコントロールライン、ノックダウン時に浸水の起こりうる2つのコンパニオンウエイ、等が写真と共に報告された。

##### (b) レース中の事故の報告

#### その他

OSRの判りやすい表現での再編集 Redraft

インターナショナルレギュレーションコミッティー報告

以 上

- \* この報告書は、JSAF外洋安全委員会への参考文書となるように作成しました。
- \* 決定については、オセアニックアンドオフショアコミッティーのもので、最終です。
- \* ただし、オセアニックアンドオフショアコミッティーの議事録を再確認されるようお願いいたします。